

イチキ大工通信

NO.13

* 12月後半～1月前半版 *

お問合せ

mobile:080 (1059) 1426

mail:info@ichiki-daiku.com

いよいよお引き渡しが迫り、それぞれの職方さんが追い込みで作業してくれています。寒い日には手がかじかむ中、大工は刃を研ぎながら材料の加工をしたり、外壁の作業、左官屋さんには水を使う仕事が続くこともありました。

夏・秋・冬と三つの季節をこの現場で過ごしてきました。

その中で、木と土の家が、季節と共に変化したり、その季節ごとに馴染んだりすることも感じます。木や土が活着しているからこそ、季節と共に変化する、成長する、だからこそこういった家はぬくもりやあたたかさを感じるのではないかと思います。

子どもたちがここで過ごすようになればその変化をより感じることでしょう。木と土で建てた家は、“経年劣化”ではなく“経年変化”していく家です。子どもたちも過ごしていく中で、家と共に成長していくことと思います。それを楽しみに作業を続けていきます！



外壁板を張った上から更に目板を貼りました。これを「目板張り」と言います。



【木連れ格子】家の妻（屋根を横から見たときに三角になった部分）部分に、格子を入れました。

【屋根工事】

ガルバリウム鋼板でできた屋根材を葺いています。縦ハゼ葺きという施工方法です。こならへの渡り廊下とのつなぎ目部分や、天窓周りの板金張りなど、雨が漏らないように納めることが大変だったそうです。屋根を施工してくださった鈴木板金工業さんについてはまたご紹介します！



【階段】

12月後半、ロフトへ上がる階段を作っていました。まっすぐ一直線に上る、「鉄砲階段」という階段です。

階段の割り付けをし、段板がはまる溝を掘りこんでいるところです（写真上）。その溝に段板をはめ込み、裏に楔（くさび）という三角形の木を打ち込んで、きつく締め付けます。そうすることで、段板を固定しています。



【漆喰】



1月14日 左官の吉田さんが、角又（つのまた）という海藻を、大きな釜で煮ていました。煮たものを濾し、糊ができます。その糊を麻と石灰に混ぜて漆喰を作っていました。

漆喰は元からできているのではなく、こうやって左官屋さんが手作業で作っているのです！



トイレ前や事務スペース、玄関など吹き抜けになっていない天井部分にも漆喰が塗ってあります。その部分の漆喰はまた配合が違い、既調合漆喰・藁を約3mm程度に刻んだ微塵ツタ・パーライト鉱石の配合だそうです。外壁の漆喰と見た目も違うので見てみてください！



電気屋さんの紹介



有限会社イソベテンキ 代表取締役 磯部 好輔 さん (横須賀市森崎)

新学童の電気配線等、磯部さんが作業してくださいました。普段あまり電気工事をする事のない構造の家なので、電線を通すことが難しいそうです。照明やエアコンをつける場所なども相談しながら、工夫して工事してくださいました。見えない小屋裏の配線も、写真のようにとっても綺麗です！磯部さんはお話もとても面白いので、現場の雰囲気もとても明るくなります！磯部さん、ありがとうございました！

